

平成

26

年度

全国体力・ 運動能力、 運動習慣等 調査 報告書

第1章

分析結果と 取組事例

- テーマ 1 幼少期の多様な運動経験
- テーマ 2 体育・保健体育の授業の充実
- テーマ 3 部活動の充実
- テーマ 4 家庭や地域で もっと運動をするようになる条件整備
- テーマ 5 生涯にわたって 運動やスポーツをしようとする意欲

第2章

課題と対策

- 課題対策 1 調査の結果をPDCAサイクルで有効に活用しよう
- 課題対策 2 運動の動機づけを高める工夫をしよう
- 課題対策 3 子供のニーズに対応して運動の日常化を図ろう
- 課題対策 4 地域との連携で運動意欲の向上を図ろう
- 課題対策 5 体力の向上についての取組を継続しよう

第3章

基礎集計

調査の概要

- I 小学校児童の調査結果
- II 中学校生徒の調査結果
- III 学校質問紙の調査結果
- IV 教育委員会アンケートの結果

CDの活用法

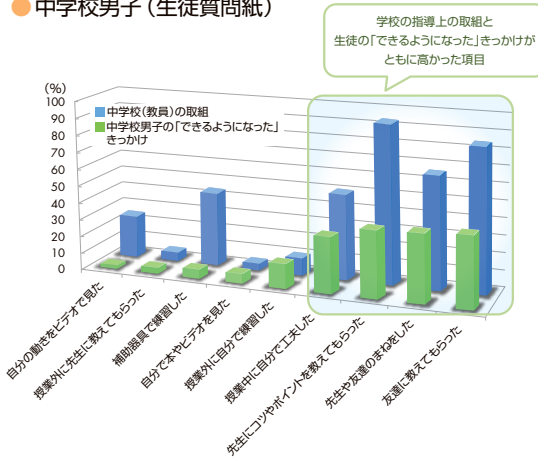
調査票

資料編

平成 26年 11月

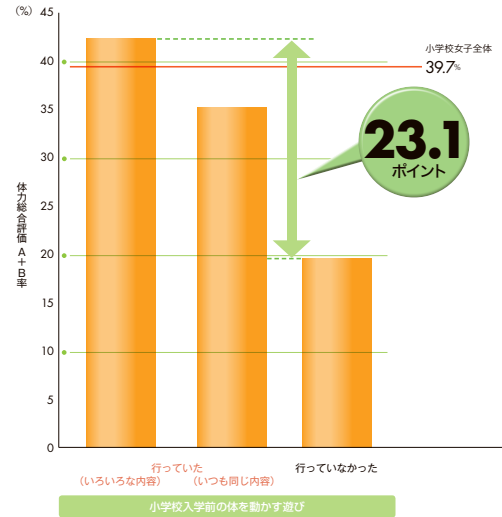
今年度の 調査結果から わかったこと

- 中学校 (学校質問紙)
- 中学校男子 (生徒質問紙)



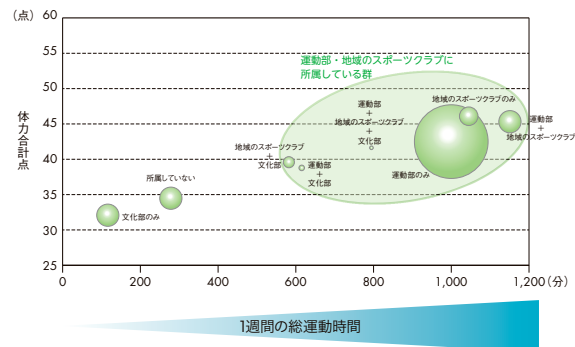
保健体育の授業で中学校男子が「できなかったことができるようになった」きっかけの上位4項目は、保健体育の授業で努力を要する生徒がいる場合の中学校(教員)の取組内容においても上位を占めた。
(18ページ 体育・保健体育の授業の充実)

● 小学校女子



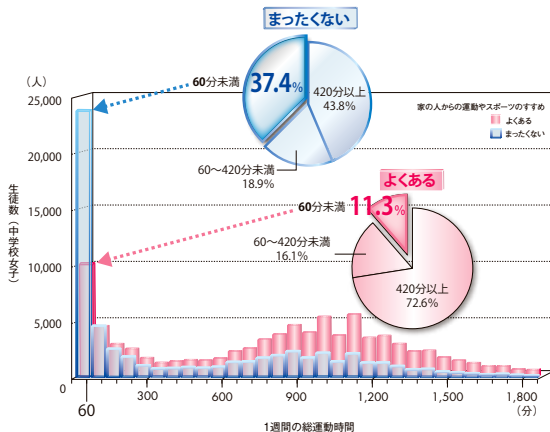
小学校入学前にいろいろな内容の体を動かす遊びをしていた小学校女子は、していなかった児童に比べて体力総合評価A+B率が23.1ポイント高かった。
(6ページ 幼少期の多様な運動経験)

● 中学校男子



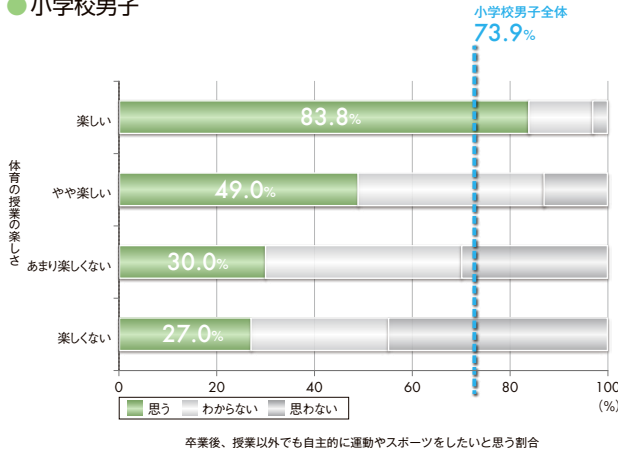
学校の運動部や地域のスポーツクラブに所属している群は、1週間の総運動時間が長く、体力合計点が高かった。
(32ページ 部活動の充実)

● 中学校女子



中学校女子で、家の人からの運動やスポーツのすすめがあるほど、1週間の総運動時間が長い生徒の比率が高かった。
中学校男子、小学校男女でも同様の傾向がみられた。
(48ページ 家庭や地域でもっと運動をするようになる条件整備)

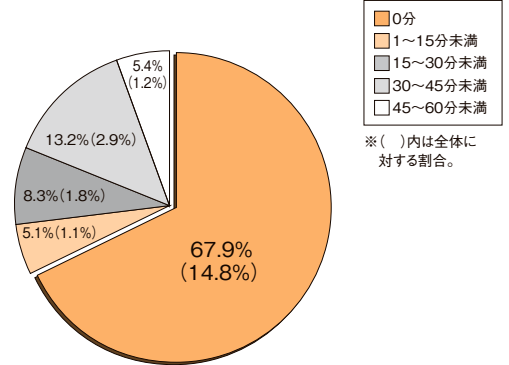
● 小学校男子



卒業後も自主的に運動やスポーツをしようと思う小学校男子は、体育の授業に肯定的な意識をもつほどその割合が高く、特に「授業が楽しい」と回答した群は83.8%と、他の群の平均を大きく上回った。

(62ページ 生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲)

● 中学校女子

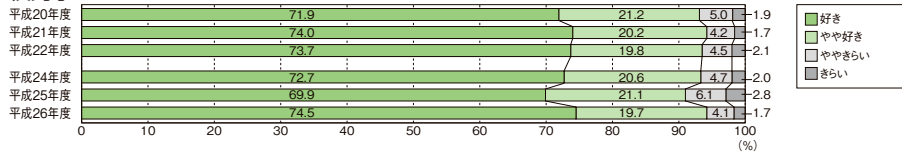


1週間の総運動時間が60分未満の中学校女子(全体の21.8%)のうち、運動時間0分の割合は67.9%(全体の14.8%)であった。

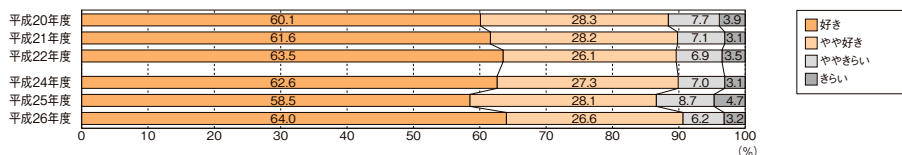
(小学校 118ページ、中学校 148ページ)

運動やスポーツの好き・嫌い

● 小学校男子



● 中学校男子

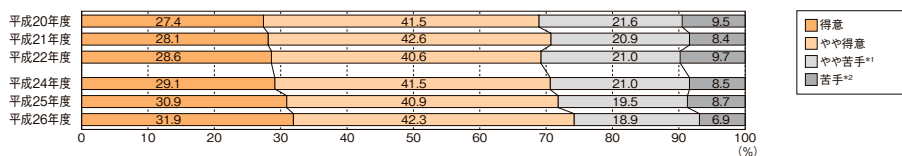


小・中学校男子で、運動やスポーツが好きと回答した割合は、本調査が始まった平成20年度以降で最も高かった。

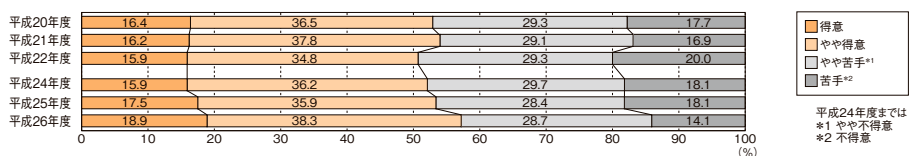
(小学校 136ページ、中学校 166ページ)

運動やスポーツの得意・苦手 (中学校)

● 男子



● 女子



運動やスポーツが得意と回答した割合は、小学校男女、中学校男女のすべてにおいて、本調査が始まった平成20年度以降で最も高かった。

(小学校 136ページ、中学校 166ページ)